



携帯電話に使われている科学技術について話す
水口教授(京都市南区・洛陽工業高)

「幅広い知識が 最新機器生む」

京産大教授 洛陽工で講演

京都市南区の洛陽工

小型化や高機能化に

業高で23日、オープン
キャンパスが行われ
た。京都産業大コンピ
ュータ理工学部の水口
充教授が講演し、携帯
電話を例に、最新機器
を生み出すには幅広い
分野の技術や知識が必
要と呼び掛けた。

水口教授は、3ギモ
あった肩掛け式の携帯
電話が最新のスマート
フォンに至るまでの技
術革新を紹介した。

は、集積回路やセンサ
ーといった電子部品の
進歩だけでなく、それ
らを動かすソフトウエ
アや部品を覆う強化ガ
ラスなど素材の開発が
欠かせないと強調。

「製品は天才的な人
が一人で作っているの
ではない」と、ものづ
くりには多様な専門家
が必要なことを訴え
た。

講演は、技術習得に

加えて、理数系科目の「ジ」の説明会の一環で
充実を掲げる新設のこ
行われた。
(梶井進)